

## 東京大学史史料室の紹介

東京大学史史料室 畑野 勇

### 1. 沿革と組織

東京大学史史料室は、東京都文京区本郷キャンパスのほぼ中央に位置する大講堂（安田講堂）の5階にある。1987年4月、『東京大学百年史』全10巻（1984～1987年刊）の刊行終了を受けて、百年史の編集のために収集された大学史資料を恒常的に整理・保存することを目的として、「東京大学百年史編集室」を改組して事務機構上に設置された。

大学史史料室の運営は、全学委員会の「東京大学史料の保存に関する委員会」が担っている。同委員会の一般的な役割は、東京大学にかかわる史料類の収集、保存、活用、調査などであるが、具体的には前述した百年史編集室が収集し、保存してきた史料等を引き継いで管理すると同時に、新たに寄託される資料類の受入れと保管、本学の一定期間を経過したのちの公文書類の受入れと整理、さらには本学に関する各種の資料やデータの提供などである。これらの事項について、委員会の策定した方針に従って、資料類の収集、整理、保管などの業務を東京大学史史料室が行っている。

「東京大学史料の保存に関する委員会」は年に数回開催され、委員会では毎回史料室の利用状況等について報告を受け、新規に受け入れた資料等の整理や保管に関する方針の決定、既存史料のマイクロフィルム化など保存条件の改善、新たな資料の収集に関する方策の策定などを行っている。また、東京大学百年史編集室が編集発行してきた『東京大学史紀要』を承継ぎ、委員会が編集にあたり、史料室より発行している。この紀要には毎号大学史に関する論説や研究ノート、資料紹介などを掲載するほかに「彙報」欄を設けて当委員会の活動状況及び史料室の業務内容などについて報告を行っている。

上に述べたように東京大学史史料室は委員会の策定した方針に従って資料類の収集、整理、保管などの業務を行うが、同時に各種資料目録の作成、寄託史料の受入れ、及び見学者や閲覧希望者への対応なども行っている。また『東京大学史史料室ニュース』を刊行して（年2回）、新規資料の紹介などを行うとともに、史料室の活動状況について逐次公表している。

史料室の人事・予算・事業なども上述の委員会にて決定、執行される。史料室には室長と室員が置かれる。室長は総長指名の同委員会委員長が兼ねることになっているが、このような規定は室長のみであり、室員については明文化されていないため、慣

行上専任教員、及び非常勤の事務と教務との補佐員を室員と呼んでいる。総務関係は本部事務局広報課が担当する。現在の定員は専任教員として助手1名（教育学部所属・本部事務局広報課事務官併任）、事務補佐員1名（本部事務局広報課所属）であり、この2人だけが日常的に史料室に出勤している。このほか非常勤の教務補佐員が3名採用されており（各人とも週2～3日勤務）、史料室の調査研究プロジェクトを担っている。

## 2. 活動

### (1) 大学史資料の整理・保存

本部総務関係の非現用法人文書（公文書）や、歴代総長などの要職を務めた大学関係者の個人文書、『大学一覽』等の学内外の刊行物、写真アルバム類といった大学史資料一万点あまりを整理・目録化して、一般に公開している。

史料室が収集・保管する公文書類は主として事務局総務部系統のものであり、学生・施設・財務の各部、学部や研究所関係などの史資料は移管されていない。主な公文書類は以下の通りである。

- ・文部省往復（明治4年～昭和36年）文部省設置以降の往復文書記録。
- ・官庁往復（明治4年～昭和35年）
- ・諸向往復（明治2年～昭和33年）
- ・学内往復（明治10年～昭和27年）
- ・文部大臣准允（明治12年～昭和6年）文部大臣の決裁文書記録。
- ・検印録（明治18年～昭和6年）
- ・国関係文書（明治16年～昭和32年）
- ・委員会・審議会関係

これら明治初年以来の大学（高等教育）行政にかかわる公文書類は、事務局の保存庫にあるものを含んでおり、すべてが公開されているわけではないが、資料の長期的な保存・活用のためにマイクロ複製化に着手している。

このほか『東京帝国大学五十年史』編纂時代に筆写、収集された公文書類を含む諸史料が、「東京帝国大学五十年史料」として総合図書館に所蔵されており、閲覧が可能である。

大学総長を務めた渡邊洪基や加藤弘之、古在由直や内田祥三などの大学関係者を対象とする個人文書は、遺族などから寄託・寄贈された日記・書簡・書類などである。いずれの資料についても、公開に際して資料目録を作成して、史料室に常備している。

個人文書（私文書）は、歴代総長・学部長経験者のものが中心で、遺族などから寄託・寄贈された日記・書簡・書類などが所蔵されている。公開に際しては資料目録を作成して、史料室に常備している。現在目録が作成されているのは、加藤弘之、渡邊

洪基、坪井九馬三、井上哲次郎、内田祥三、小池行松（元新潟大学教育学部教授）の文書等である。

個人文書は教員のみが収集の対象ではなく、卒業生、職員も含めている。職員では退職時あるいは異動時に移管して貰っている。これら史資料の内容、分量は一様ではなく、受入れを行った後もしばらくの間、整理・目録作成にまで及んでいないものが数多く存在する。

## (2) レファレンス・サービス

史料室の業務は、前述したように史料室規則によれば「東京大学百年史編集委員会によって収集された史資料の整理および保管、寄贈資料の受入れ、東京大学に関する各種資料・データの収集、整理および保管」とされている。しかし史料室に勤務する室員の感覚では、レファレンス・サービスが圧倒的な比重を持っている。照会に対する回答は、史料室規則に規定された恒常的な業務の蓄積によって可能になるはずであるが、実際には半日～数日間を要して調査・回答しなければならないケースが大多数である。この照会の件数は毎年250件以上であり、近年はマスコミ関係のものが増加の一途を辿っている。これらの照会に対しては、個人情報の保護や大学自治原則に留意しながら回答にあたっている。照会事項の例をあげると、「赤門はいつ、なぜ建てられたのか?」「三四郎池は、いつからそのように呼ばれたのか?」「帝国大学は、全国にいくつ設立されたのか?」「自分の曾祖父が明治時代に東大を卒業したという話を聞いたが、真偽を確かめることは出来るか?」などがある。

## (3) 大学史（高等教育史）に関する調査・研究

『東京大学百年史』の編纂後、より一層の東京大学史の調査・研究を促進し、来るべき一五〇年史編纂の準備として、独自の研究プロジェクトを企画・運営している。『東京大学の学徒動員・学徒出陣』（1997年刊）は、その成果の一端である。現在は、「東京大学創設期の総長関係資料の基礎的調査及び研究」と「大学の自己点検評価の歴史的調査及び研究」の研究プロジェクトに着手している。

## (4) 東京大学の歴史に関する啓蒙活動

近年、総合研究博物館との共催企画として歴代総長の事績に関する展示「東大総長のプレゼンス～渡邊洪基から内田祥三まで～」(2004年4月から8月まで)を開催した。ここでは史料室収蔵の「渡邊洪基肖像画」や「恩賜の銀時計」、「昭和戦前期の東京帝国大学風景」(映像フィルム)や「大学公印」、「加藤弘之日記」や「渡邊洪基日記」などを出品展示し、総長の存在や役割を大学史の観点から考察する機会を社会的に提起した。今後も大講堂その他の施設・機関において、今後も所蔵資料の展示などを試み、多くの方に対して大学史の普及・啓蒙につとめたいと考えている。

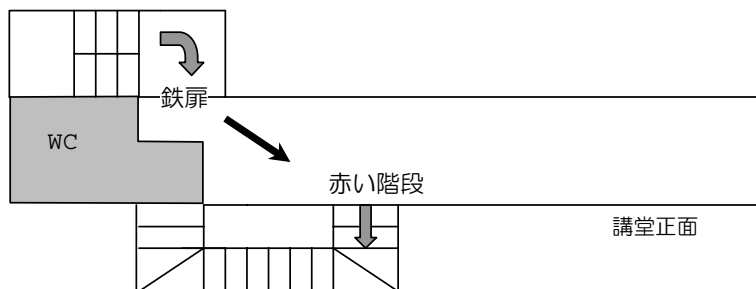
## 東京大学史史料室へのご案内

お問合せ先：03-5841-2077（直通）

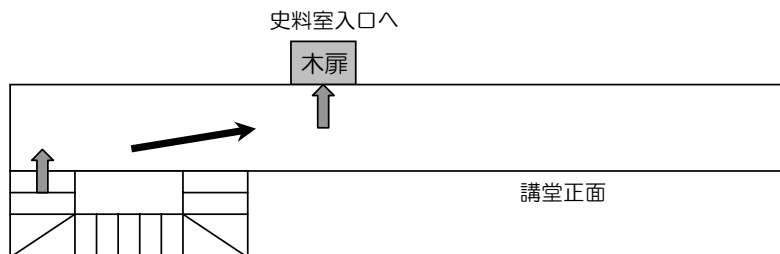
1. 安田講堂裏手に回り、「生協プレイガイド・トラベルセンター」の看板がある入口を入ると階段があります。この階段を3階まで昇ります。



2. 「大学史史料室入口」の表示がある鉄製扉（階段を背にして右側）からお入り下さい。お手洗いの前に通じています。左手に歩いて行くと、メインエントランスのロビーに出ます。ロビーにある赤い絨毯の階段を昇ってください。



3. 赤絨毯の階段を昇ると、4階廊下に出ます。いくつか扉がありますが、階段に背を向けて向側に「大学史史料室」の看板を掲げた木製の扉があります。開けると階段になっており、昇りきった所に史料室入口があります。



4. インターホンを押してください。職員が扉を開錠いたします。

データシート (利用案内)

平成 18 年 9 月現在

機関名：東京大学史史料室

所在地：〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 大講堂 (安田講堂) 5 階

電話 / FAX : 03-5841-2077 / 03-5841-2036

ホームページ : <http://www.u-tokyo.ac.jp/history/index-i.html>

交通 (アクセス) :

東京メトロ丸ノ内線または都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅から徒歩約 15 分

東京メトロ千代田線「根津」駅から徒歩約 10 分

都営地下鉄南北線「東大前」駅から徒歩 10 分

閲覧曜日・時間 :

毎週火・水曜日の午前 9 時 30 分から正午まで、午後 1 時から 4 時 30 分まで (正午から 1 時までは、閲覧できない)。

祝日および年末年始は閉室。また事情により臨時に閉室することもあるので、閲覧に際しては、あらかじめ電話などで閲覧の連絡をお願いいたします。

複写 :

収蔵資料の保存管理のため、電子複写は基本的に不可。既定の手続きに従い、白写か自影は可能。

主要刊行物 :

- ・『東京大学の学徒動員・学徒出陣』(1997 年刊)
- ・『東京大学歴代総長式辞告辞集』(1997 年刊)
- ・『東京大学年譜 1877 - 1977 - 1997』(1997 年)
- ・『A history -21 Short Stories in Pictures - The University of Tokyo 1877-2000』(2000 年)

定期刊行物として『東京大学史史料室ニュース』(年 2 回刊行)、『東京大学史紀要』(年 1 回刊行)がある。

